

2007(平成19)年度 法学既修者選考試験問題

民事訴訟法

(90分、総点100点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注意

1. 問題用紙は、表紙をふくめて4ページで、問題は3問ある。
2. 解答用紙は1枚配布する。解答は解答用紙に記入し、解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として、白紙を1枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示によること。また、「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には、応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお、試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
7. 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
8. 問題用紙及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

第1問

原告甲は、被告乙に対し、期限の定めなく貸し付けた300万円の返還を求めて訴えを提起した。

この案件に関する以下の各問いについて、理論的な根拠と根拠条文の摘示引用の両方に注意しつつ、説明しなさい。

1 裁判所の訴状受付窓口の担当書記官が、甲の訴状を受け取った（受理印はまだ押印されていない）。この後、第1回口頭弁論期日の開廷に至るまで、訴訟手続は具体的にどのように進むのか、簡潔に述べなさい。 [配点20点]

2 第1回口頭弁論期日に、原告甲と被告乙の双方が出頭した。 [配点10点]

(1) 被告乙は、「請求原因事実は全部認める」と述べた。

ア)この場合の訴訟法上の効果はどのようなものか。

イ)これを聞いた裁判所として、どのような訴訟指揮をすべきか。

(2) 乙は、「300万円を受け取ったことは確かだが、あれはかつて甲に売った車の代金として甲から受け取ったものだ」と述べた。

ウ)乙のこの主張の訴訟法上の意味と効果はどのようなものか。

エ)これを聞いた裁判所として、どのような訴訟指揮をすべきか。

3 第1回口頭弁論期日に、原告甲は出頭したが、被告乙は欠席した。 [配点20点]

(1) 乙から「本件請求は認められるべきでない。」とのみ書いた書面が、裁判所と甲に提出されていた。裁判所として、どのような訴訟指揮をすべきか。

(2) 乙から事前に何の書面も提出されていなかった。裁判所としてはこの事件をどのように取り扱うべきか。

(3) 上記(2)の場合において、乙の転居先が不明であったため、訴状送達が公示送達による場合であったら、どうなるか。

(4) 上記(2)の場合において、裁判官がたまたま個人的に、実は甲が「訴訟マニア」でこの訴訟も事実無根のでたらめなものであることを知っていたとする。裁判所として今後の訴訟指揮をどのようにすればよいか。

4 第1回口頭弁論期日に甲乙とも欠席した。裁判所は第2回口頭弁論期日を指定し甲及び乙に対して呼出状が送達されたが、同期日にも、甲乙ともに出頭しなかった。甲は、訴状以外には何らの書面を提出しておらず、乙からは書面の提出は一切なされていない。この場合、裁判所はどのような訴訟指揮をすべきか。 [配点5点]

第2問 [配点15点]

原告甲は、被告乙に対し、中古車の売買契約に基づく売買代金として、200万円の支払いを求める訴えを提起した。乙は請求棄却を求めて争ったが、結局、甲の請求を認容する判決が言い渡され、同判決の正本が乙へ送達された。乙は、この送達を受けた日から控訴しないまま20日間が経過した時点で、「あの売買は、甲が自分を欺す意図で詐欺行為を行ったもので無効だ」と、再度、裁判所に申し立てたいと考えている。

乙がこの申立てをした場合、どのようになるか。裁判所の行う具体的な訴訟手続を予想しつつ説明しなさい。

第3問 [配点30点]

以下の手続きのうち、受命裁判官が単独で行えないものはどれか、その条文上及び理論上の根拠とともに明らかにせよ。

- ア) 口頭弁論
- イ) 弁論準備手続
- ウ) 準備的口頭弁論
- エ) 和解(成立)期日
- オ) 裁判所内での証人調べ(証人尋問期日)
- カ) 判決言渡し
- キ) 病気で出廷出来ない原告の入院先病院を訪問しての原告本人尋問
- ク) 担当医師の勤務先病院を訪問しての証人尋問または鑑定人質問

【解答上の注意】

「第1問」と、「第2問及び第3問」とは、それぞれ別の解答用紙に分けて記載すること。

以上

余白